

「基地が安全の脅威」

F15落下事故 那覇市長指摘

翁長雄志那覇市長は5日の定例記者会見で、米軍嘉手納基地所属のF15戦闘機の風防ガラス落下事故について「残念な出来事で、またいつ起こるか分からない」とした上で「基地が県民の安心・安全にとって脅威になっていることははっきりしている」と述べた。

(1面参照)

戦後69年、米軍機事故が繰り返されてきたとし「各政党・団体が抗議するが(米軍内で)綱紀粛正されているか分からないまま今日まで来ている」と指摘。「対処方法が具体的に伝わ

るように示さないと、県民は『分かりました』とならない」と述べた。

普天間飛行場の県内移設断念などを求めた「建白書」の実現を目指す協議会発足に向けた動きに関し「私が曰(い)うから言っていることと歩調が一緒だ。(動きが)もっと広がれば基地問題に対処する大きな力になる」との認識を示した。

米軍機トラブル 共産党県委抗議

国に撤去・撤退要求

【嘉手納】共産党県委員会(赤嶺政賢委員長)は5日、沖縄防衛局を訪れ、米

軍普天間飛行場所属のMV22オスプレイの米軍嘉手納基地への緊急着陸と、F15戦闘機の風防ガラスの脱落事故に対して抗議した。両トラブルの原因と対応を明らかにすることや、在日米軍基地からのオスプレイの即時・全機撤退、F15戦闘機を直ちに撤去することな

どを要請した。

真栄里保基地問題・平和運動部長はオスプレイの緊急着陸の理由が解明されていない中、飛行が許されているのを問題視。F15戦闘機の風防ガラス落下についても自衛隊機の落下事故と比べて「米軍の事故(件数)はあまりにも異常ではないか」と指摘。沖縄防衛局が米軍に再発防止策を申し入れても実効性が伴っていないと対応を批判した。

し「原因究明がされないままに訓練が再開されている状況は、周辺住民の生命を軽視した基地乱用と言わざるを得ない」と強く抗議している。